

受注企業動向調査結果

-2012.11-

- 調査時点 平成24年9月調査（平成24年9月末時点）
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎（3、6、9、12月末時点）
- 回答企業 97社（回答率：64.6%）

<業種内訳>

プラスチック	8社
鉄鋼・非鉄	6社
金属製品	21社
一般機械器具	21社
電気機器	19社
輸送用機器	8社
精密機器	9社
縫製	5社
計	97社

DI (Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値です。

生産高（対3ヶ月前比）DI

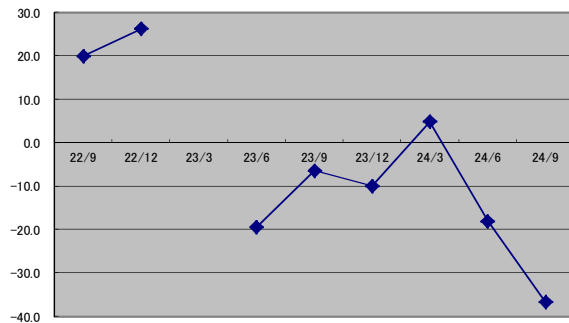
製造業全体で落ち込み

【概況】

生産高DIは▲36.7となり、前回の▲18.0から18.7ポイント減と大幅悪化し、マイナス幅が拡大した。

産業全体の落ち込みにより、過去2年で最低の値となった。依然続く円高や領土問題による輸出の減少、エコカー補助金の終了が要因と考えられる。

生産高(前年比較)DI



	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9
生産高（3ヶ月前比較）DI	20.0	26.3	(未調査)	▲ 19.4	▲ 6.4	▲ 9.9	4.9	▲ 18.0	▲ 36.7

業況3ヶ月先見通しDI

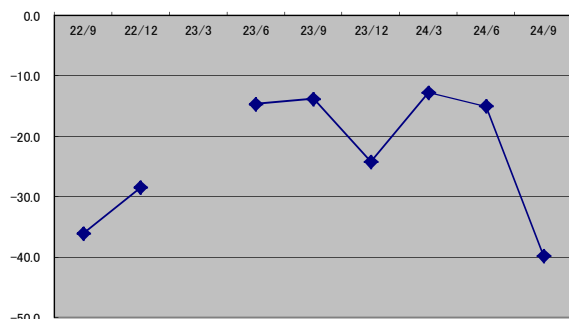
見通しは厳しさを増している

【概況】

業況3ヶ月先見通しDIは▲39.8となり、前回の▲15.0から24.8ポイント減の大幅悪化となった。

依然続く円高や現地生産化の加速により、海外への生産シフトが急速に進んでおり、国内の受注環境は悪化している。また、中国との領土問題が解決するまでは見通しが立たないとの声も聞かれた。

業況3ヶ月先見通しDI



	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9
業況3ヶ月先見通しDI	▲ 36.0	▲ 28.4	(未調査)	▲ 14.6	▲ 13.8	▲ 24.2	▲ 12.7	▲ 15.0	▲ 39.8

受注単価D I

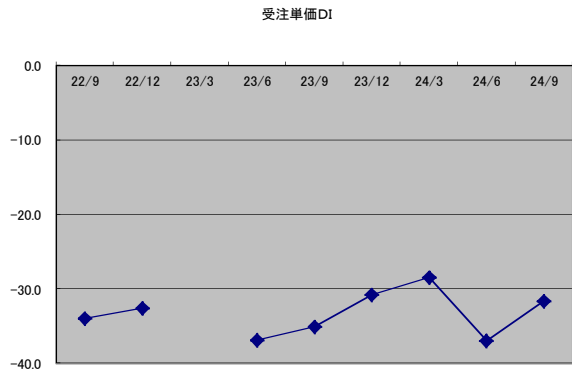
低調に推移し、改善の兆しもなし

【概況】

受注単価D Iは▲31.6となり、前回の▲37.0から5.4ポイント改善となった。

受注単価はここ2年間の調査において低調に推移しており、改善の兆しは見えていない。

国内大手企業を中心にグローバル化が進むなか、県内の中小企業は人件費の安い新興国との競争にさらされており、受注単価も厳しい状況が続くと見られる。



	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9
受注単価 D I	▲ 34.0	▲ 32.6	(未調査)	▲ 36.9	▲ 35.1	▲ 30.8	▲ 28.4	▲ 37.0	▲ 31.6

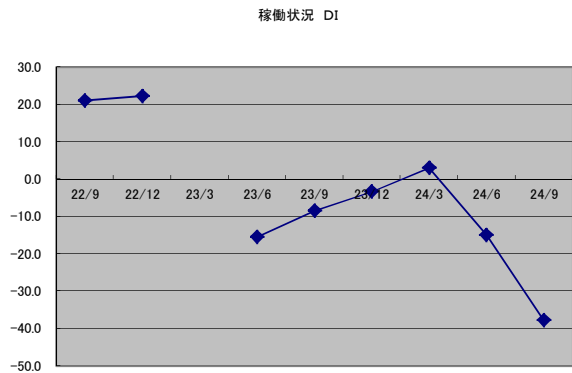
稼働状況D I

全業種で大幅悪化

【概況】

稼働状況D Iは▲37.8となり、前回の▲15.0から22.8ポイント減と、大幅悪化した。

国内生産活動の悪化により、設備の稼働状況も悪化していることがうかがえる。



	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9
稼働状況 D I	21.0	22.1	(未調査)	▲ 15.5	▲ 8.5	▲ 3.3	2.9	▲ 15.0	▲ 37.8

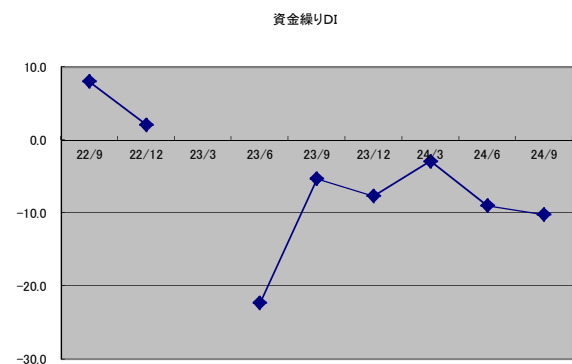
資金繰りD I

震災以降、マイナス水準で推移

【概況】

資金繰りD Iは▲10.2となり、前回の▲9.0から1.2ポイント減と悪化となった。

震災以降、資金繰りD Iはマイナス水準で推移しており、生産量の減少、受注単価の低下による採算性の悪化が要因と考えられる。



	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9
資金繰り D I	8.0	2.1	(未調査)	▲ 22.3	▲ 5.3	▲ 7.7	▲ 2.9	▲ 9.0	▲ 10.2